

大規模イベント制限維持

コロナ分科会 感染増で来年2月まで

政府は12日、新型コロナウイルス感染症対策分科会を開いた。西村康稔経済再生担当相は12月1日以降の、プロスポーツなどの大規模イベントの人数制限方針について、緩和を来年2

月末まで見合わせるよう提案した。新型コロナウイルス感染者数の増加傾向が全国で顕著になっており、「爆発的な感染拡大にならないようになければと危機感を募らせている」と述べた。

西村氏は、冬に向けて寒く乾燥した気候になり、閉め切った空間で活動することが増えると感染が増える懸念があると強調。「このまま感染拡大が続けば、より強い措置を取らないとい

11月(2日)木曜日 神戸新聞(分)刊

けなくなる」とも語った。プロスポーツなどの大規模イベントは定員の50%とする人数制限を11月末まで設定している。プロ野球では横浜スタジアムで、高橋細方メラなどの新技術を用いて観客の3密(密閉、密集、密接)を回避し、上限を超える観客を動員した実証実験を行っており、この結果も報告。

人出の集中が懸念される初詣や、大規模イベントと同様に現在は定員の50%までに制限している食事を伴う映画観賞の感染対策についても議論した。

分科会は9日に急速な感染拡大が起きる可能性があるとする緊急提言をまとめた。ホストクラブなどの接待を伴う飲食店や、多数の外国人が生活している地域で集団感染が続いており、政府は対策強化を図る方針だ。西村氏は外国人が多い地域での感染拡大について「マスクを着用する習慣が

ないとか、体調が悪くても医療機関を受診する習慣がないとか、さまざま課題が明らかになっている」と指摘した。

走り出したら止まらないのではなく、きちんと根拠を持って立ち止まるべきところは止まり、走れるところは自信を持って走る。日本の良さであると私達は自負します。

本当に自信を持って走り出す日のために。